

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500377		
法人名	社会福祉法人 新生寿会		
事業所名	グループホーム新賀Ⅱ きのこのき		
所在地	岡山県笠岡市新賀字美之越3220-28		
自己評価作成日	令和5年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370500377-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和5年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの想い・御家族の想いを聴き取り、大切に、一人ひとりのその人「らしさ」に重点を置き、生活を援助している。 ・コミュニケーションを通して、お年寄り・御家族との信頼関係を第一に、「第二の家」として、「ここに居て良かった」と思ってもらえるように努めている。 ・看護師が在籍しており、医療面でのサポートを行っている。 ・お年寄りが四季を感じることができ、また見た目でも楽しめるよう、行事ごとの食事やおやつは工夫し、提供している。 ・敷地内に家庭菜園があり、利用者にも、野菜の苗植えや収穫にも参加してもらっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>介護保険制度が出来て間がない頃に開所した「新賀Ⅱきのこのき」も既に20数年が過ぎ、勤務年数の長い職員はホームと共に歴史を積み重ねながら歩んできた。開所当初から一貫して変わらないものの一つが旬の食材を取り入れたメニューであり、家庭菜園で採れた野菜を職員が毎食手作りで提供している。お彼岸には「おはぎ」正月には「おせち料理」等々行事ごとの食事も大切にしている。「医食同源」の言葉通り食べる楽しみは生きる力、元気の源になっている。今年度から管理者も交代し新体制でコロナ禍を乗り切ってきた。一人ひとりの声に耳を傾け、我が家で生活しているような暮らし方を支援しようと職員が一丸となって取り組んでいる。建物も純和風で、一歩玄関を入るとホッと落ち着くアットホームな雰囲気とするのは職員の温かい対応があるからだろう。これからも地域の福祉の要として頑張ってください。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今までの生活を崩すことなく、その方の気持ちを理解しながら個人の価値観を尊重するケアを提供いたします」を理念を大目標として、実践できるように努めている。	法人のきのこグループの理念を基本に、その人らしさを大切にしながら、日々の生活の中で「外出の機会を増やす」等の実現しやすい具体的な目標を掲げて実践している。また、理念は職員間で共有し、法人内でも研修をして周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナの影響により、交流を中止しているが、コロナが終息した時に何が出来るか現在検討中である。	同敷地内には法人の関連施設が多数あり、一つの地域を形成しており、イベント等を通して日頃から交流がある。コロナ禍で中断しているものも多々あるが、今年度も1名看護実習生を受け入れた。散歩の途中で出会った人達と挨拶や会話をして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナの影響により、見学の受入れ、サロンへの参加を中止している。どのような状況になれば再開が出来るか、現在検討中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	営推進会議については自粛をしているが、報告書は同一敷地内のGHと共有をするようにしているが、GH内の報告書の共有が出来ていない。	コロナ禍になってからは参集しての運営推進会議はしていない。昨年までは笠岡市へ書面で報告していたが、現在は法人のリーダー会議で毎月ホームの活動状況の報告をしている事が議事録からも確認出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議については自粛をしているが、市には2か月に1度、会議報告書を提出している。担当者との顔の見える関係を大切にしており、わからないことや困ったことがあれば、その都度電話や窓口で相談をしている。	市の担当者には必要に応じてその都度電話又は窓口等で相談しており、ホームの実情もよく理解してもらっているし、日頃から情報提供を受けたり、密に情報交換をして連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人老健施設で行っている委員会に参加をしている。ミーティング内で、報告を行いどのような事が拘束になるのかを職員間で話し合い、身体拘束にならないようにケアをしている。また、法人内の身体拘束の勉強会にも参加をしている。	高齢者虐待防止に向けた研修をする等、定期的に勉強会をして身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。外出要求の強い人には見守りを徹底し、可能な限り職員が付き添って散歩に出かけ、気分転換をもらっている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人老健施設の委員会に参加し、日常の中で話しをして、正しい理解が出来るように意見を出し合ったりし、常に意識を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は権利擁護について外部の講師を招いて成年後見制度の勉強会を開催していたが、コロナの影響により勉強会を自粛している。コロナの状況次第で、勉強会の再開を検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を提示し、口頭でゆっくりとわかりやすい言葉で説明を行うようにしている。改正時にも書面を提示し、疑問や不安な点があればいつでも時間をとり、納得していただけるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で、ご家族が面会に来られる頻度が減っているが、面会に来て頂いた時等に、要望をお聞きできるように心がけている。話の内容ややりとり等を記録に残し、職員間で共有している。	面会時や必要に応じて電話等で積極的に家族と話し合いコミュニケーションを取るようにして、意見や要望は運営に反映するようにしている。また、毎月家族へ手紙と写真を送って近況報告をしているが、文面が全員同様の内容になっている。	手紙の文面が個々の状況報告にはなっていないように思うので、コロナ禍で面会制限がある今一番求められているのは、家族が安心するような一人ひとりの状態・様子を伝える手紙と思う。今後に向けて期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングだけでなく、勤務の合間などでも、意見交換をしケアの見直しをしている。意見は柔軟に取り入れ、スタッフの思いを反映させている。	定期的なミーティングをしたり、申し送りノート等で情報共有や意見交換をして課題についても話し合っている。また、法人内の各種委員会や研修でスキルアップをしており、職員間のコミュニケーションもよく取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がGH統括責任者に報告している。管理者はスタッフと話しが出来る時間を設け、意見の言える雰囲気作り、機会を設け、自主性を大切に、それぞれの思いに柔軟に協力できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	統括責任者は、管理者から報告を聞き、情報交換をしている。職員は同法人内の勉強会に参加したり、研修にも参加し、視野を広く持ち、ケアに広がりを持つようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加や、同一敷地内のグループホームとの交流を、コロナの影響で自粛しているが、再開できるようになれば積極的に外部研修や勉強会に参加していきたい。また、勉強会や研修を通して学んだことを、日々の関わりに活かせるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と話しをし、部屋には馴染みのものを持って来て頂いたり、環境を整える。ご本人の様子や、どのように日々を過ごされているのかをお聞きする。ご家族が不安に感じている事もしっかりと聞くようにしている。職員間での情報共有を徹底し、ケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	対面では難しい面もあるが、入居前後には電話などでお話しをお聞きする時間を持ち、少しずつ関係作りをしていく。また、ご家族が不安に思われている事があれば、電話等で重点的に話しをするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分自身の想いを伝えることができる方には聞き取りを行っているが、中には難しい方もおられる。その時には、ご家族に過去ご本人が言っておられた言葉や想いを聞いたり、御家族の想いをお聞きし、プランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしていることを常に心掛け、入居者一人ひとりの「居心地が良い居場所」をスタッフが見極められる目を持てるように努め、信頼関係を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ状況により制限は、あるが環境を整え対面での面会も行えた。また、毎月の請求書と一緒に手紙を添えているが、GHでの生活が少しでもご家族に目で見えて伝わるように写真を添えたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙が届く方には返事を書くようすすめることもあるが、難しい事が多い。「書いてみよう」と思ったタイミングを大切にしたい。ドライブ等出掛ける時は、思い出のある場所を選ぶこともあり、喜んでいただけている。	県内の家族とは和室でマスクとフェイスシールド着用で対面での面会、県外の場合は窓越し面会をしてもらっている。Aさんの105歳の誕生祝には家族と一緒に過ごせる機会を作ったり、息子からの手紙を楽しみにしている人もいる等、それぞれの馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の心地よい空間作りに努めており、大切にしている。トラブルとなりそうな時にはさりげなく間に入り声掛けを行っている。また、一人で過ごす時間も大切にしており、小目標にも掲げている。「気持ちを理解し、本人のペースを崩すことなく適切な距離を保つかかわり」をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、何かあればいつでも相談していただけるようご家族にお伝えし、体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの声を職員がミーティング・カンファレンス等で話し合ったり、また、ご家族と話す中からも情報を集めている。そこから、アセスメント、課題分析を行い、本人の意向をどうケアの中に取り入れていけるかを話し合っている。	特別な日(誕生日)には本人の希望でお寿司の昼食と和菓子が出る等、記録からも利用者の思いや意向を受けて日々の生活に取り入れているのが分かる。また、介護記録やアセスメントからも本人の発言や行動をよく把握しているのが確認出来、プランにつなげるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族の話を聞き、日々の記録や申し送りノートを活用しながら情報を職員間で把握、共有をするようにしている。また、ミーティングで話しをし、状況に応じてご本人の希望に添えられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わりを持つ事で1日のリズムをつかみ、普段の生活を知ること、ちょっとした変化にも気付けるようにしている。 変化があったら都度ご家族に連絡し、報告や相談をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	しっかりと本人に添ったアセスメントをし、アセスメントによって整理された情報を基に課題の抽出を行っている。ご本人やご家族の思いを含めて、課題に対してカンファレンスを行い、職員の意見をまとめ介護計画を作成している。	私の想い(どう生きたいか)、ご家族の想い(どう生活して欲しいか)欄の本人・家族の意向を基に職員間で話し合いながらケアプランを作成している。 アセスメントシートを6ヶ月毎に作成し、モニタリングを3ヶ月毎に行いながら一人ひとりの現状に即したプラン作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には表情、本人が発した言葉を残し、時に文字だけで理解できない場合には写真など活用する事もある。居合わせていなかった職員が記録を読んだ時に状況を思い描けるよう、分かりやすく記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の言葉やご家族の想いをしっかりと聞いたり、ご相談をして対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お年寄りの状態に応じての地域資源の活用ができていない。また、どのような資源があり活用できるのか情報を集められるよう市や社協、地域の機関と連絡を取り合っているよう、色々な方法を模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回、エスポアール病院担当医の診察を受けている。また、状態変化に応じて受診ができるよう体制をとっている。状態によっては、他の病院の専門医を受診するが、その際には紹介状を書いて頂き、受診をしている。	利用者全員母体病院の医師を主治医としており、それぞれの主治医の往診もある。医療連携を取っている老健の看護師の訪問が週1回あり、職員に看護師もいるので医療と介護の連携がよく出来ていて安心して生活出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状態に変化があった時などは細かく変化を伝え、いつでも相談し、対応できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書の作成を行っている。入院中や退院時には、医療連携室と連絡を取り、話し合い・情報交換・相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前後にご本人が話されていたことなどをご家族からお聞きしたり、状態に応じてその時々でのお考えやお気持ちを汲み取れるようにしている。その話しをふまえ、ミーティングを行って情報共有をしている。	開設して20数年になるホームはこれまでも多くの看取りを経験してきたが、2週間前にも一人の方を見送ったばかりである。現在も105歳のターミナルの人がいる。職員間で看取りの振り返りをし、思いを共有し、次へのステップアップにつなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時マニュアルを作成しており、それを基に体制を作っている。急変時にはエスポアール病院医師と連携がとれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループ全体での避難訓練を定期的に行っていたが、現在はコロナの影響でできていない。GH内で連携の仕方を確認している。	コロナ前は同敷地内の4グループホーム合同で避難訓練を行っていたが、今はホーム独自で机上訓練を行っており、避難経路の確認、手順、通報装置の操作等の災害・防犯訓練(シュミレーション)をしている。日頃から法人施設との連携体制もよく取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お年寄り一人ひとり、気にされている事や言われると不快になる事が違うので、都度ご家族からお聞きし、個々に応じた言葉遣いや声の大きさ・トーンに十分に気を付けて、声掛けを工夫している。	記録の中に「ため口で話さない」「馴れ馴れしくならぬように対応の見直し」等の記述があり、日頃から言葉遣いに気をつけ、人としての尊厳を大切にしよう心がけている様子が確認出来た。また、写真使用についての意思確認をして個人情報にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お年寄り同士の会話やスタッフとのふとした会話の中で話された事や、言葉にされなくても傍に居ることで思いに気付いたりした事を職員で話し合ったり、ご家族に相談して、応えられるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りの生活のリズムを把握し、様子に気を配りながら希望に応えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、好みの髪型や長さになっている。季節に合ったその人らしい服装になるよう、助言したり調節をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたメニューを心がけ家庭菜園で取れた野菜も提供している。できる方には、食事の下ごしらえを一緒にしてもらっている。食事をみんなのそばで作り、音や匂いを感じてもらっている。	お彼岸の日の訪問だったので、職員手作りのおはぎや春野菜の昼食を頂き、季節の行事を大切にしているホームの姿勢を実感した。天気の良い日は庭で昼食会をしたり、白い割烹着と三角巾で草餅を作っている利用者さん達の写真もあり、食事が楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は記録に残している。食事は個々に合った形態と量で提供している。摂取量の少ない人や嚥下機能が低下している人には状態に応じて、代替えとして好む食べ物を提供したり、状況に応じて栄養補助食品をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアしている方や、一人ひとり状況に応じて義歯の洗浄などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、間隔やサインを逃さないように、さりげなく声掛けし、誘導をしている。自室トイレが2階の方は、1階共用トイレも使用してもらっている。臭いに配慮しながら汚物の処理に努めている。	排泄が自立で布パンツで過ごしている人は3名。他の人は紙パンツ、パット併用、紙おむつとそれぞれの状態に合わせて排泄用品を選んでいる。居室にトイレが設置されているので、ベッドからトイレへの動線や手すりの位置を工夫して安全に使用出来るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活や水分摂取で自然排便につながるようにしている。また、個々に応じて下剤の服用を医師・看護師に相談し、調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人に合わせて声掛けをし、希望をきいている。好む湯温や入浴時間もある為、安全でリラックスして入浴してもらえるようにしている。また、健康状態によって入浴できない時には清拭を行っている。	殆どの人は一般浴槽にゆったり浸かって入浴を楽しんでもらっており、105歳の高齢の人は体調を考慮してシャワー浴や清拭で対応している。季節の行事として冬至には柚子湯をして利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活ペースに合わせ、無理のないように日中の活動を重視している。散歩に出掛けたりし、少しでも快眠や休息がとれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬・臨時薬と処方される薬の目的や副作用について理解が出来るように、薬の説明書は、介護記録と一緒に1か月分入れ、併せていつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に散歩に出かけたり、外の掃除や庭の草取りを手伝って頂いたり、洗濯物を畳んでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小目標に「本人のニーズに合わせた外出先を選び、時間にとられることなく出かけられる体制を整えます」としているが、コロナの影響でできていない。	コロナ禍の為、以前のようなフットワークの良い外出支援が出来ていないが、家族と協力して外出・外泊の機会を作るように努めている。花見をしたり、笠岡の干拓地へ菜の花見学に行く等、ドライブにもよく出かけている。天気の良い日は四季折々の花々を楽しみながら広い敷地内を散歩して気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全て施設で管理しているが、お年寄りからの購入リクエストにはご家族と相談の上、購入している。使用した支出については出納帳に記入し、使途については出納帳のコピーを請求書と一緒に送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればご家族に電話をかけて話しをして頂いたり、うまく想いを伝えられない時には職員が代弁している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて手すりの設置を行い、より歩行がしやすいように対応している。季節毎にインテリアを変え、お花を飾ったりして、四季が分かるように努めている。元入居者の作品もリビングへ飾っている。	リビングは決して広くはないが、横になって寛げる畳コーナー、花鉢やメダカの水槽が置いてある吹き抜けの坪庭もあるので、陽光が差し込み室内は明るい。テーブルや玄関には四季折々の花やお雛様も飾っており、季節を感じながらそれぞれ思い思いに好きな事をして自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席で一人でゆっくり本を読んだり、新聞を読んだり、テレビを観たりし過ごしたりしている。席は決まっておらず、その時その時でのお年寄りの状況に配慮しながら、空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小目標に「プライバシーが守られ、安心して自由に物が持ち込める自分だけの落ち着いた空間を作ります」とし、居心地良く過ごせるように、部屋のインテリアは家具等使用したものを持ってきて頂くようにご家族に理解を求め、協力をして頂きその人らしい部屋になるようにしている。	全室畳敷きの和室なので、その人の状態によっては生活しやすいようにフローリングへの変更を検討中との事。どの部屋も家族の愛情があふれたインテリアで、家庭の延長のようなその人らしさが滲み出た明るく清潔で居心地の良い生活環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状態や精神状況に合わせ、インテリアや家具の配置・部屋に手すりの設置をし、転倒事故防止に努めている。ご自分の部屋だと認識しやすいように居室には表札を掛けている。また、リビングの椅子は2種類の高さがあり、体形によって高さを選び座っている。		